

## ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査結果について

## 1 目的

平成 28 年度に区民に対してアンケートを実施したところ、ユニバーサルデザインに対する認知度は 3 割に満たない回答であった。

一方、前回のユニバーサルデザイン推進協議会において、職員の認知度についても把握する必要があること、数値が低い場合には、まず職員の認知度を向上させることが望ましいとの意見があった。

これを受け、ユニバーサルデザインに係る職員の認知度を把握することを目的とした調査を、以下のとおり実施した。

## 2 実施概要

項目	内容
タイトル	ユニバーサルデザインに関する職員アンケート
対象	係長級以下の行政系、医療技術系職員及び幼稚園教育職員 (再任用短時間勤務職員を含む。)
配付・回収方法	WEB 回答及び書面回答(保育園職場)
回収数	1,372 件
調査期間	平成 29 年 7 月 10 日(月)～7 月 24 日(月)(WEB 回答) 平成 29 年 7 月 11 日(水)～7 月 26 日(水)(書面回答)
実施主体	福祉部障がい者福祉課ユニバーサルデザイン推進係
調査票構成	【問 1】年代 【問 2】職種 【問 3】ユニバーサルデザインの認知度 ※問 3 で「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」を選択した者を対象 【問 4】ユニバーサルデザインを知った主なきっかけ 【問 5】職務を行うにあたり意識しているユニバーサルデザイン ※問 5 で「特に意識していない」と回答した者対象) 【問 6】特に意識していない理由

### 3 集計結果概要

#### (1)ユニバーサルデザインの認知度

##### (ア)職員のユニバーサルデザインの認知度

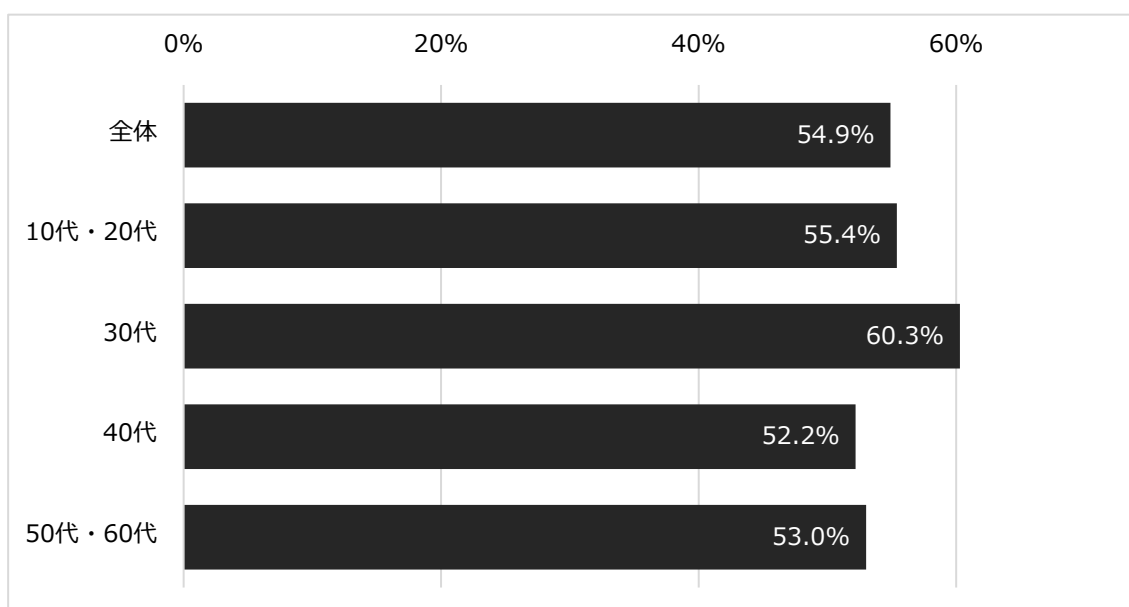
- 「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した人の割合は職員：54.9%であった。

選択肢	割合	
具体的な事例まで知っている	23.2%	54.9%
言葉の意味まで知っている	31.7%	
言葉だけは聞いたことがあった	35.7%	
知らなかった(今回初めて聞いた)	9.4%	

- ※区民の「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」と回答した人の割合は、26.2%であった。

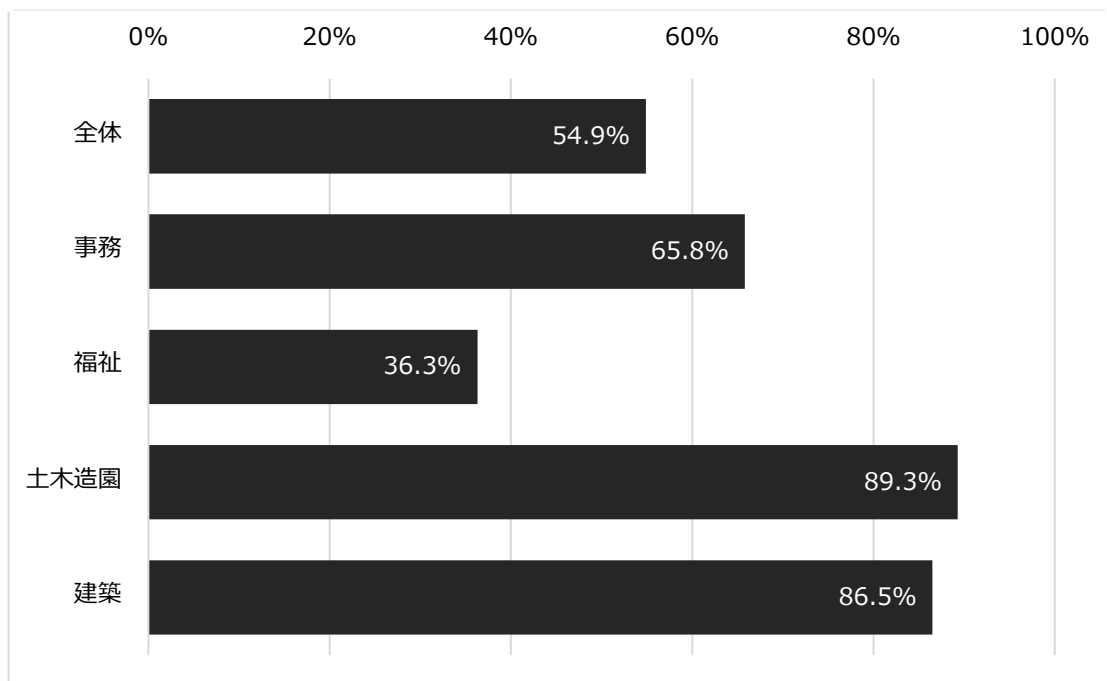
##### (イ)年代別内訳

- 「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」の回答を、年代別に比較した。
- 30代の職員は、全体の認知度よりも高い。



(ウ)職種別内訳

- 「具体的な事例まで知っている」または「言葉の意味まで知っている」の回答を、職種別に比較した。
- 事務・土木造園・建築の職員は、全体の認知度よりも高い。



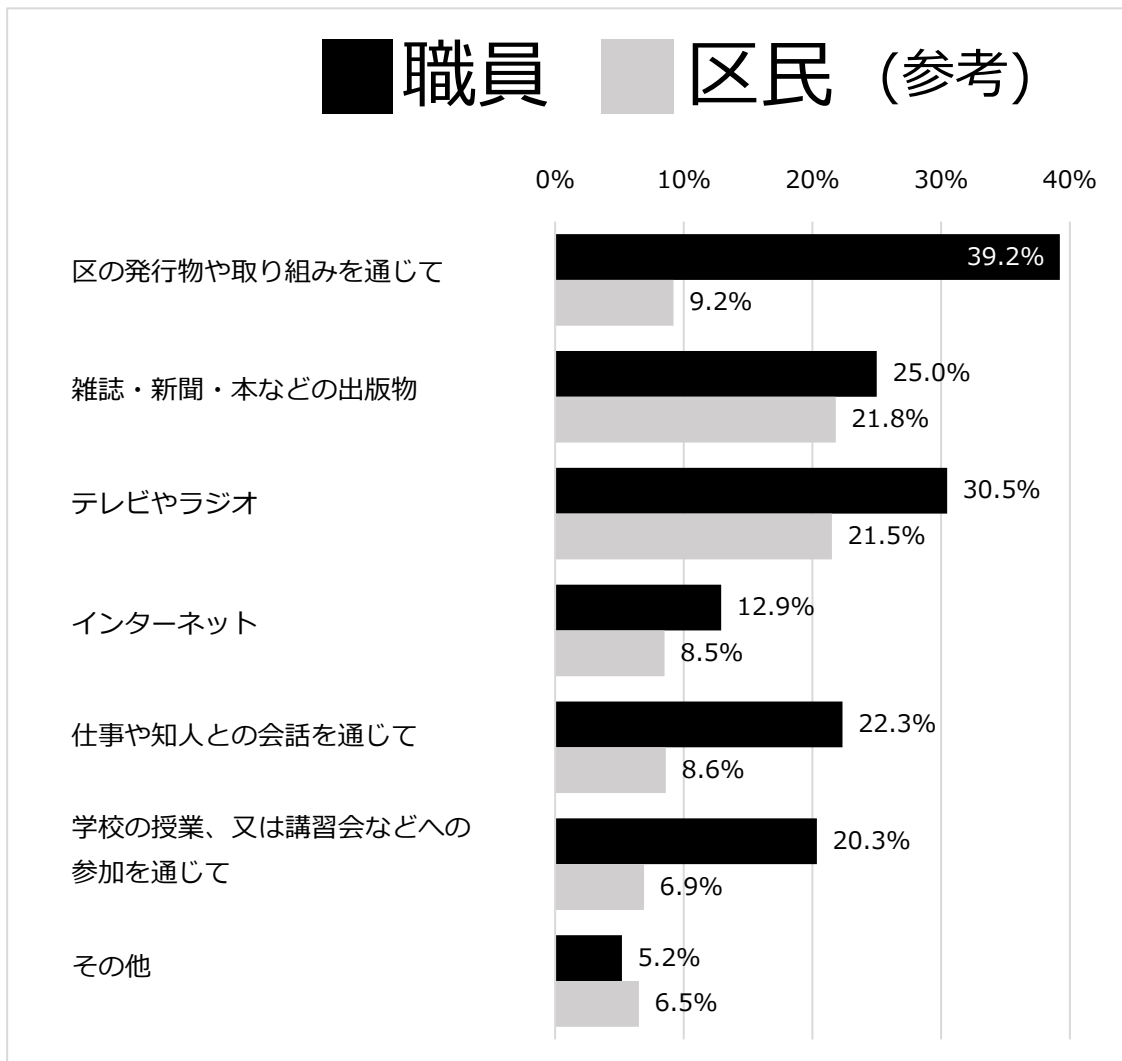
※福祉：(福祉・保育士・児童指導) 土木造園：(土木技術・造園技術)

※回答数が少ない職種については省略している。以下同じ。

(2)ユニバーサルデザインを知ったきっかけ(回答は2つまで)

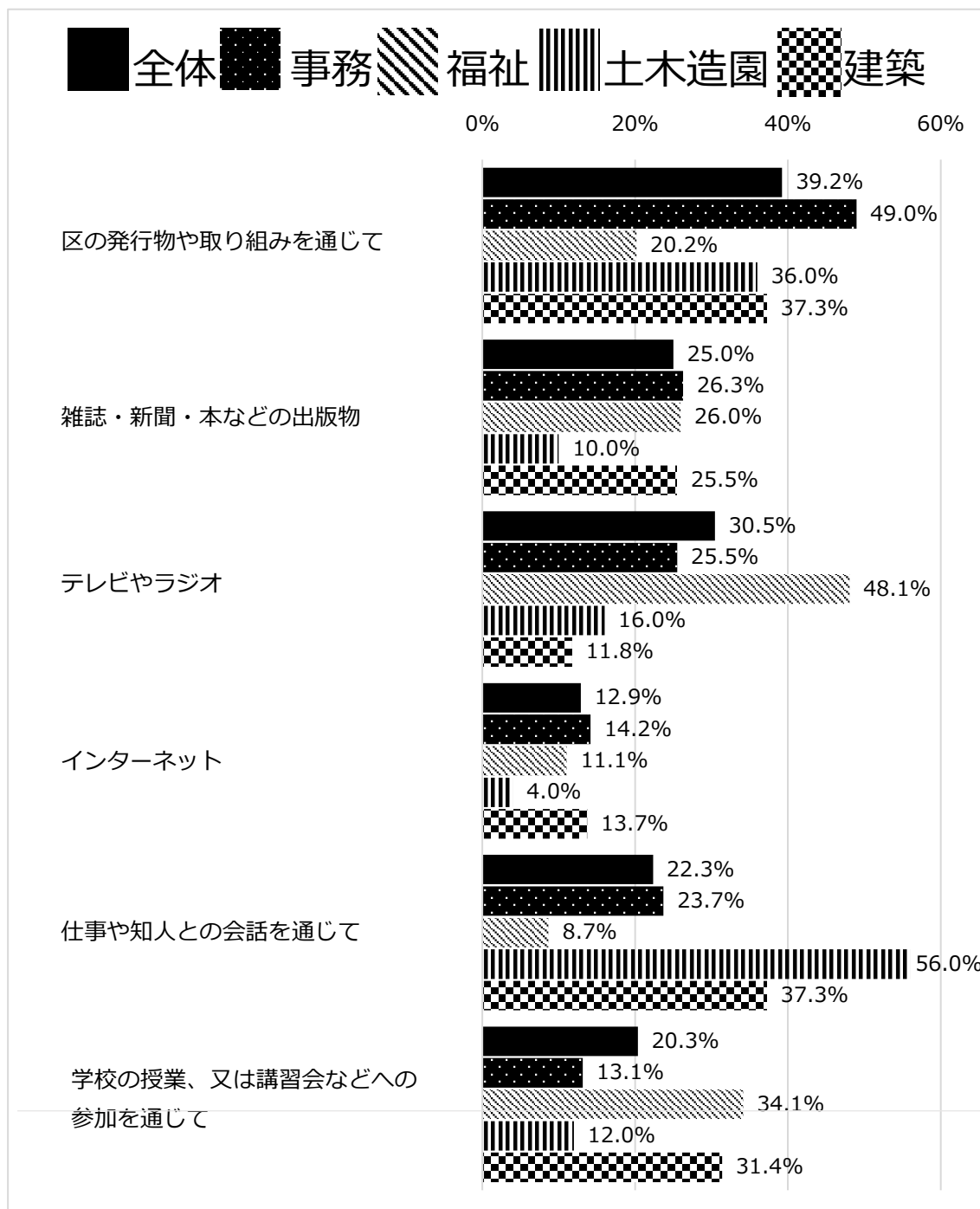
(ア)職員のユニバーサルデザインを知ったきっかけ

- 職員では「区の発行物や取り組みを通じて」(39.2%)、「テレビやラジオ」(30.5%)、「雑誌・新聞・本などの出版物」(25.0%)の順で回答した人の割合が多い。
- その他の具体的回答をみると、「子どもを通じて」と回答したものが5件あった。ユニバーサルデザインを知ったきっかけとして、子どもからの影響があることを読み取ることができる。
- 参考に、区民は「雑誌・新聞・本などの出版物」(21.8%)、「テレビやラジオ」(21.5%)、「区の発行物や取り組みを通じて」(9.2%)の順で回答した人の割合が多い。



(イ)職種別比較

- 「区の発行物や取り組みを通じて」と回答した人の割合は、事務が全体よりも高い(49.0%)。一方、福祉は全体よりも低い(20.2%)。
- 「仕事や知人との会話を通じて」と回答した人の割合は、土木造園(56.0%)、および建築(37.3%)が全体よりも高い。一方、福祉は全体よりも低い(8.7%)。
- 「学校の授業、又は講習会などへの参加を通じて」と回答した人の割合は、福祉(34.1%)、および建築(31.4%)が全体よりも高い。

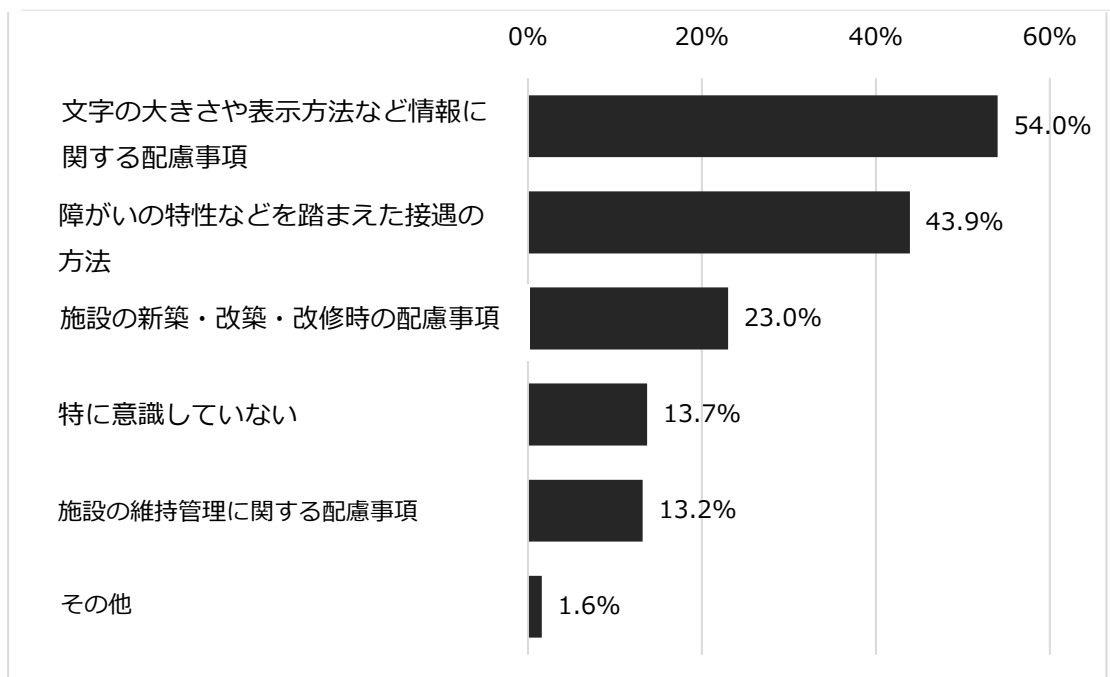


(3)職務を行うにあたって意識しているユニバーサルデザインの方法

(回答は2つまで)

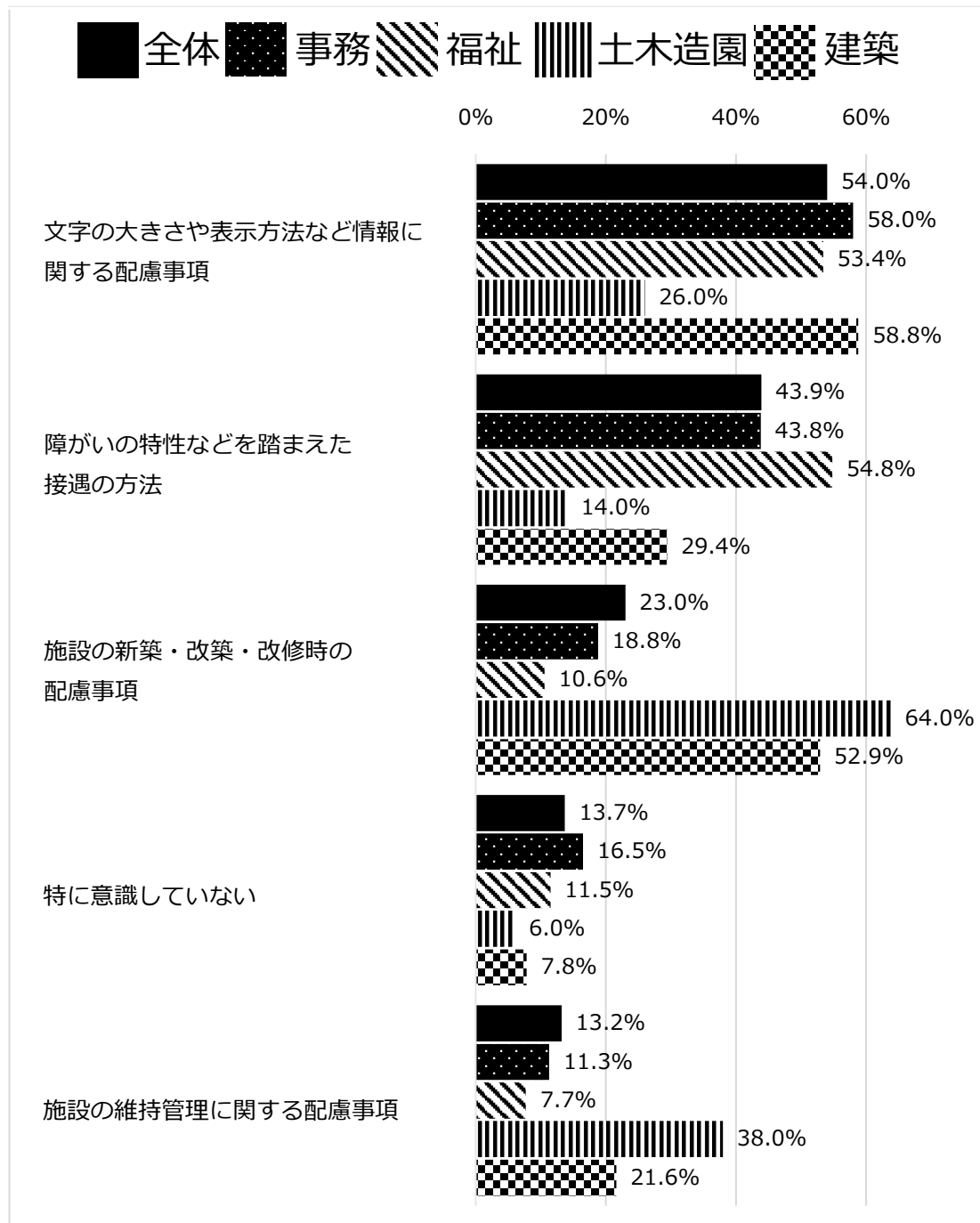
(ア)回答内訳

- 「文字の大きさや表示方法など情報に関する配慮事項」や「障がいの特性などを踏まえた接遇の方法」といったソフト面に関する回答は、高い傾向にある。
- 「施設の新築・改築・改修時の配慮事項」や「施設の維持管理に関する配慮事項」といったハード面に関する回答は、低い傾向にある。



(イ)職種別比較

- 「障がいの特性などを踏まえた接遇の方法」といったソフト面の回答が高い傾向にあるのは福祉である。
- 「施設の新築・改築・改修時の配慮事項」や「施設の維持管理に関する配慮事項」といったハード面の回答が高い傾向にあるのは、土木造園や建築である。



(4) 「特に意識していない」と回答した理由

- 「ユニバーサルデザインを職務に活用する方法がわからない」または「ユニバーサルデザインは現在の職務と関係ない」といった回答は、合わせて 90% を超えている。
- 一方で、「ユニバーサルデザインは当たり前のことであり、特に意識する必要がない」と回答した人の割合は、14.6%である。

